

教えて！  
加藤先生



**5年** 【主題名】**誠実に生きる** 【教材名】**手品師**  
(光文書院)

**主題を通して考えたいこと**

**〈正直、誠実〉**

●人として誠実であろうとすることは、単に正直にすることとは違い、ときとして悩み、迷う中でも一筋の通った生き方をしようとする心が必要であることがわかる。そして、そのような心をもって自身の悩みと向き合う手品師の姿から、自他に対して誠実であろうとし、よりよく生きていこうとする態度を養う。



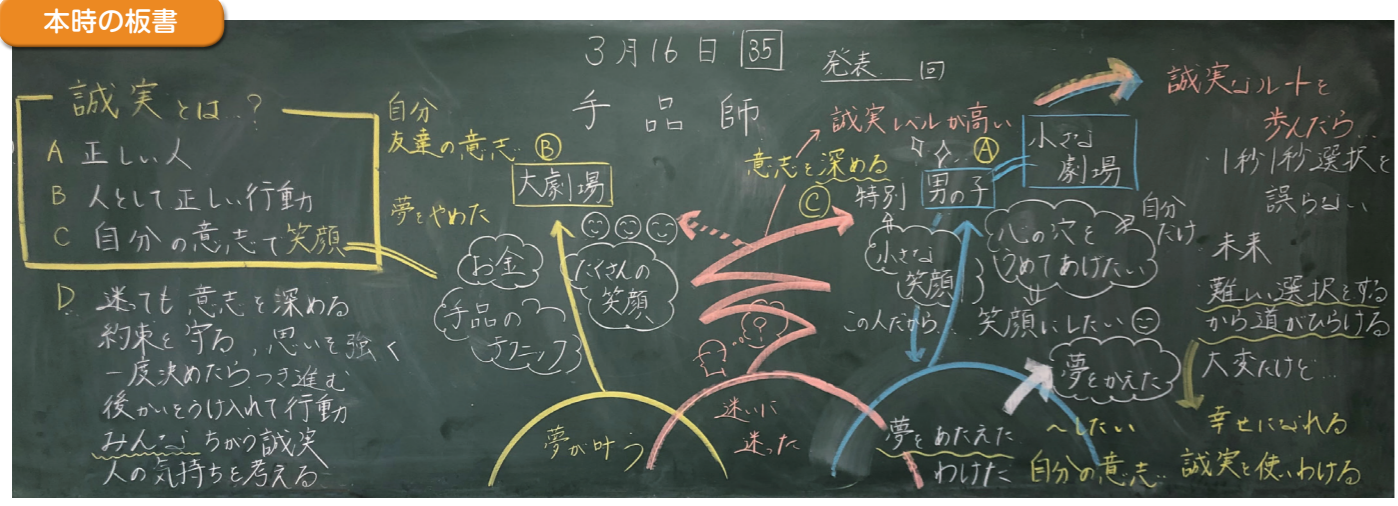
**相談者・相談内容：児童の考えを深める授業**



豊橋市立二川小学校 水流 卓哉 先生

教師の問いから子ども自身の問いに変容させていくためには、よりよくあろうとする人間性を拠る所にし、わかっているつもりからの脱却を図れるような授業展開が必要だと考え、実践を行いました。内容項目を窓口に、よりよく生きていこうとする意志の表れや、心構えを養えるような道徳授業にするためのポイントを教えてください。

学習活動	手立て
○自分の考える「誠実」について想起し、問題意識をもつ。	●誠実に対する考えを表出させた後に、辞書の文言と比較することで、一般論として知っている概念を崩し、問題意識をもてるようにする。
○教材を読んで思ったことや、考えたことを発表し合う。	●「手品師は誠実か考えながら聞いてください。」と投げかけ、読みの視点をもたせうえて教材を範読する。
○登場人物の行為・行動のおもとの心を考える。	●「男の子」と「大劇場」とを左右に対比させて板書することで、手品師の葛藤や迷いに気づかせる。
○導入時と同じ発問をすることによって、初めの意識と話し合い後の意識の変容に気づかせる。	●再度、「誠実とは」と問うことにより、「誠実＝正直で裏切らない、よいこと」という固定概念を覆し、道徳的価値観の再構築を促す。
○再構築した自分なりの誠実さがあればどのように生きていけるか考える。	



**授業で工夫した点**

- 1 子どもの思考の流れを意識した発問構想  
導入時に設定した問題意識を基に「本質に向かう一点の発問」を投げかけ、教材全体を俯瞰して考えられるようにした。また、問いに対する子どもたちの反応に対して「問い返し」を行い、思考を広げられるようにした。そして、意識が途切れないよう、子どもたちの言葉を紡ぎながら授業展開を講じたことで、ねらいに向けて子どもたちの意識を焦点化することができた。
- 2 子どもの思考の流れを視覚化した構造的な板書  
導入と終末を同じ位置に板書し、自身の考えの変容が一目でわかるようにした。また、展開時には「男の子」と「大劇場」とを対比させて板書し、ベクトル(矢印)を活用して手品師の心の迷いや葛藤を表したり、発問の性質と連動させたりしたことで、誠実に対する本質をとらえる子どもの姿がみられた。

**授業の内容 (T:教師 C:児童)**

T:「誠実」とは、どのようなことだと思いますか。  
C:嘘をつかない。  
C:よくわからないけど、正しいことをする人。  
T:確かに、難しい言葉だね。辞書を引くと「まじめで、嘘やいつわりのない正直なこと」とあるよ。  
C:じゃあ予想が当たったね。  
T:では、相手が嫌な気分になることであっても、正直に伝えることは誠実といえるのかな。  
C:それはちょっと違う気がする…。  
T:では、今日は誠実についてもっと詳しく考えていきましょう。今日のお話の手品師は、誠実かどうか考えながら聞いてください。

(教材範読後)  
T:手品師は誠実だと思いますか？  
C:大劇場は手品師の夢だったけど、自分の意志を貫いたから誠実だと思う。  
C:でも、自分の夢は大劇場に行くことだったから、本当に誠実なら自分の意志とか夢を捨てちゃだめだと思う。  
C:大劇場に行って得られるたくさんの笑顔よりも、男の子の小さな笑顔の方がいいと思った。  
T:笑顔の違いがあるんですか。大劇場で見せる笑顔と、男の子に見せる笑顔との違いは何ですか？  
C:大劇場での笑顔は、お客さんが手品を楽しむ笑顔。小さな男の子の笑顔は、男の子も喜んでくれてうれしいという心からの笑顔。  
C:大劇場は営業スマイルって感じ。でも、町の片隅で見せた笑顔は、男の子と手品師の二人でつくった笑顔。  
T:だったら、迷うことなく、即決して男の子のところへ行った方が誠実レベルは高いんじゃないですか？  
C:迷っても、自分の意志で決めたから誠実レベルが高いと思う。

C:みんなで学ぶ道徳の授業と同じ。迷って、考えて、話し合うからこそ、自分の思いや考えが深まるんだと思う。  
C:迷ったってことは、人の気持ちを考えたってことだから誠実レベルが高いと思う。  
T:じゃあ、もしも悩んだ末に大劇場に行ったのであれば、誠実レベルが下がるってこと？  
C:悩んで迷って決めたことなら変わらないと思う。  
C:一緒なのかもしれないけど、意味が違う。どちらも笑顔はあるけど、意味とか質が変わってくる。  
C:どっちに行っても後悔は残るから、後悔を受け入れることも誠実だと思う。

T:今だったら、誠実とはどのようなことだと思いますか？  
C:自分の意志で人を笑顔にできるような人。  
C:迷って考えて、後悔が残る決断だったとしても、それを受け止めて、次につなげていく人。  
C:誠実に生きるって大変だと思う。でも、その弱い心と誠実に向き合うからこそ、幸せだなんて思える瞬間があるんだと思う。  
T:手品師のような誠実さがあれば、どのような生き方ができそうか考えながら、今日の授業を振り返りましょう。

**子どもの反応**

**【A児の振り返り】**

導入時に辞書の文言と比較させたことにより、授業の前後での考え方に変容がみられた。

手品師の行為・行動のおもとの心をとらえ、そのよさに気がついていく。

授業での学びを実生活につなげようとする意欲的意識の高まりが窺える。

**【B児の振り返り】**

内容項目「個性の伸長」と関連させながら、多面的に考えを深めている。

授業での学びを実生活につなげようとする意欲的意識の高まりが窺える。

ここはナイス！  
**考えることに前向きな姿勢**

深く考え議論する道徳授業を目指す以上、子どもたちが考えることに対して前向きであることが何より求められます。その点、水流先生の学級は、子どもたち自身が授業を通してより深く考えようとしています。「弱い心と誠実に向き合うからこそ、幸せだと思える瞬間があるんだと思う。」などの発言からは、よりよくありたい心をベースにして考えていこうとする姿勢が感じられます。そのような学級づくりと、今回の授業の手立てが相まってこそこの成果だと思います。

私ならこうする！  
**学びの成果を日常生活につなげる**

子どもたちには誰もよりよく生きていきたいという「願い」があるはずです。それを根底において授業を進め、授業での学びと子どもたちの「願い」をリンクさせていくことがポイントです。たとえば子どもたちが授業中に発言した「営業スマイル」という言葉を取り上げ、「みなさんはどのような〇〇スマイルを大切にしたいですか」「そのような〇〇スマイルを誰かから感じたことはないかな」「〇〇スマイルって、自分もみんなも幸せにするね」というように、子どもたちの学びの成果を日常生活につなげることで、実生活における前向きな心を養うことができると思います。